

令和4年度研究推進計画

海田町立海田西小学校

1 研究主題

主体的に学びを深める児童の育成
～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

2 研究主題設定の理由

学習指導要領では、「実際の社会や生活で生きて働く『知識及び技能』『未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』『学んだことを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』を一人一人の子供に育成していくことが示されている。

これまで本校では、平成25年度から、児童に思考力・判断力・表現力をつけることをねらいとして、NIEの実践に継続して取り組んできている。また、令和3年度から、広島県教育委員会より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」として3年間の指定を受けており、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元における開発・実践を行っている。

昨年度は、育成したい資質・能力を「主体性」、「コミュニケーション力」、「メタ認知」に設定し、「実生活や実社会と関わる必然性のある課題設定」と「自らの考えや課題を更新する場の工夫」を重点項目に掲げて取り組んだ。具体的には、各教科等やNIEとの関連を図り、探究的な学習を行っていく中で、児童が自分の考えを再構築したり何かを創造したりする場を設けるようにした。これらの取組により、探究的な学習のプロセスを意識し、主体的に課題設定をする児童の割合が高まった。しかし、依然、自分の考えを積極的に伝えることへの肯定的自己評価をする児童の割合が少ないことや、児童のメタ認知力を育成するための手立てが十分でないこと等においては、課題が残ったままである。

そこで、本年度は、昨年度までの研究主題と育成したい資質・能力を踏襲しつつ、本校児童の実態、地域の特色、これからの社会に求められる力等を鑑み、昨年度の課題に取り組んでいく。研究の土台として欠かせないのは、平成24年度から継続している海田西中学校区での小中連携、小中連携による9年間を見通した指導である。3校で連携を図りながら、落ち着いた学習環境の整備、海田町の素材を生かした単元開発、地域との連携等を行う。その上で、生活科及び総合的な学習の時間と教科における見方・考え方が探究のプロセスを通して相互に作用し合い、深い学びの実現につながる授業づくりを目指す。こうした探究的な学習の中で、児童の問題意識が揺さぶられて取組が真剣になる、身に付けた知識及び技能の有用性を実感する、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりする等の学びの姿が見られるようになることが期待される。そして、自分の課題を、自分の力で解決し、その過程と成果を自覚することを繰り返しながら、児童自身が自らの学びをコントロールできるようになることは、西中校区で目指す資質・能力である「主体性」、「コミュニケーション力」、「メタ認知」の育成につながり、互いに影響を与え合うことにより、それぞれの資質・能力がより発揮され、育成されると考えている。

これらの資質・能力を育成するために、本年度は、次のことに重点をおいて取り組む。

主体性の育成においては、課題設定の工夫を行う。具体的には、児童が「どうして」と思えるような、題材との出会いの工夫を行い、問題の意識化を図る。そして、児童が「～したい」と思えるような、実現（または解決）の見通しをもたせることで、問題の課題化を図る。そのためにも、実生活や実社会と関わる必然性のある課題設定を行い、積極的にNIEの活用をしていく。

コミュニケーションの育成においては、協働の場づくりの工夫を行う。具体的には、活動の視点の

明確化をすることで目的の共有化を図ることや、思考ツールや ICT の活用で、情報の共有化を図る事が考えられる。同時に、他教科との関連を図りながら、対話のスキルや書く力を身に付けさせる。

メタ認知力の育成においては、振り返りの工夫を行う。具体的には、授業後に自己評価シートへの記入をして学びの言語化を行ったり、単元ルーブリックの作成及び活用をして自分の学びの現状と目標の共有化を図ったりする。また、「単元を貫く問い」を活用し、単元の導入と終末における知識・技能を比較させたり、作成物や自己評価等を比較させたりすることで、児童自身が、学びの広がりや深まりの実感をもてるようにする。さらに、これからの学習への転用を表現する場を設定し、抽象化・概念化を図るようにする。

以上の取組を実践することを通して、学校教育目標「夢と志を持ち よりよく生きようとする 児童の育成」に基づき、「自主自律を体現しようとする西っ子」を育成することができると考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

PBL（プロジェクト型学習）の考え方をもとにした、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践において、主体的な学びを実現させるという視点に立って、実社会や実生活と関わる真正の学びに取り組めば、教科等における学習や体験等を効果的に関連させ、最善解を考え、自主自律を体現できる子どもを育成することができるだろう。

4 研究内容

1年目	2年目	3年目
<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの理論研修 ○育成を目指す資質・能力を設定 ○PBLの考えを参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践（各学年1単位以上） ○実践をまとめたパワーポイント作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック試案 ○NIEや図書、タブレット等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの理論研修と実践交流 ○育成を目指す資質・能力の検証 ○探究的な学習についての、指導過程、指導（学習）方法、発問等についての授業研究（各学年1単位以上） ○実践をまとめたパワーポイント作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック活用 ○NIEや図書、タブレット等の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの実践報告（HP等） ○育成を目指す資質・能力の改善 ○PBLの考えを参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践・改善（各学年1単位以上） ○域外に普及するためのリーフレット作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック改善 ○NIEや図書、タブレット等の効果的な活用

5 検証計画について

指標	達成目標			検証時期	検証方法
	1年目	2年目	3年目		
児童・生徒の授業満足度	80%以上	85%以上	90%以上	2月	質問紙調査 個の変容
探究のプロセスを意識した児童・生徒の割合	80%以上	85%以上	90%以上	2月	質問紙調査 ポートフォリオの活用
単元計画の開発・実践	1単元以上	1単元以上	1単元以上	2月	成果物

6 校内研修計画について

月	日	研修【内容】(授業者)
4月	6日	校内研修【方向性の共有】 ・昨年度までの研修報告
6月	未定	海田町探究的な学習の在り方に関する研究推進協議会 兼 校内研修【第○学年 総合的な学習の時間授業研究】(研究主任) ・指導助言「ループリックの在り方について」 広島県教育委員会指導主事
7月	未定	校内研修【研究会に向けて】 ・単元構想図を活用した単元構成の見直し
8月	未定	校内研修【学習指導案作成】
10月	21日	海田版「学びの変革」推進協議会【研究会】 ・指導助言 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 永田 忠道 様
11月	4日	N I E 学習発表会 ※新聞を活用した、生活科及び総合的な学習の時間で学習した内容の発信
1月	未定	校内研修【研修内容の見直し】 ・ループリックについて ・次年度カリキュラムマネジメント
3月	未定	校内研修【総括】 ・1年間のまとめと振り返り ・次年度への展望

【授業研究について】

- ・全教諭1人1回以上、研究主題に沿う学習指導案を作成して授業研究を行う（研究会を含む）。
- ・研究授業後は、事後研修での意見交流を参考にして改善指導案を作成する。
- ・「ブロック研修」「全体研修」の持ち方は、次のようにする。

【ブロック研修での授業研究の持ち方について】

- ・低学年ブロック（〇〇，〇〇，〇〇），中学年ブロック（〇〇，〇〇，〇〇），高学年ブロック（〇〇，〇〇，〇〇），特別支援ブロック（〇〇，〇〇，〇〇）で随時，研鑽を積む。
- ・授業研究は，原則，総合的な学習の時間または生活科を行う。知的障害学級や通級指導教室は，自立活動を行う。専科については，研究主題に沿うものであれば教科を問わない。示範授業を兼ねる。
- ・各ブロックで事前に指導案検討及び事後研修を行う。
- ・授業後には，成果と課題を明確にして記録し，担当者に提出する。

【全体研修の持ち方について】

- ・研究授業を行う学級以外の児童下校後，研究授業と協議を行う。
- ・参加者は，基本，全教員とする。
- ・協議会の会場設営，記録写真については，教務部で行う。